

OAM(大口式)ライブオペセミナー・症例

執刀医：鈴木 光雄先生

OAM先進インプラント公認インストラクター



性別：男性
年齡：40代前半
部位：左上側切齒

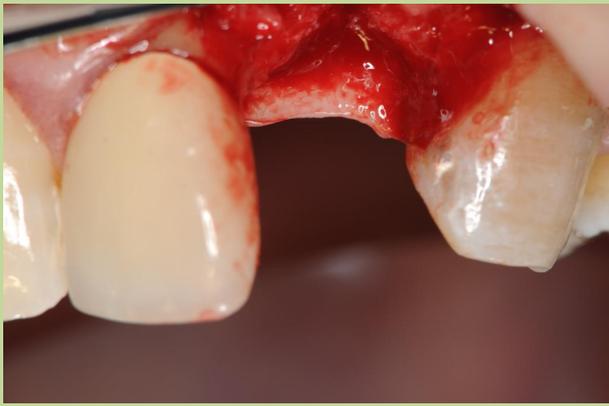


粘膜骨膜弁形成直後

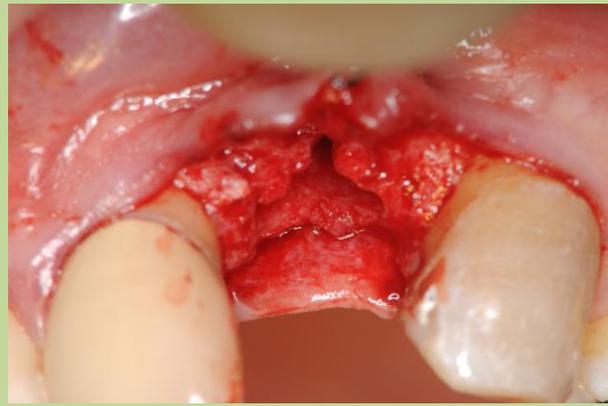


術前デンタル画像

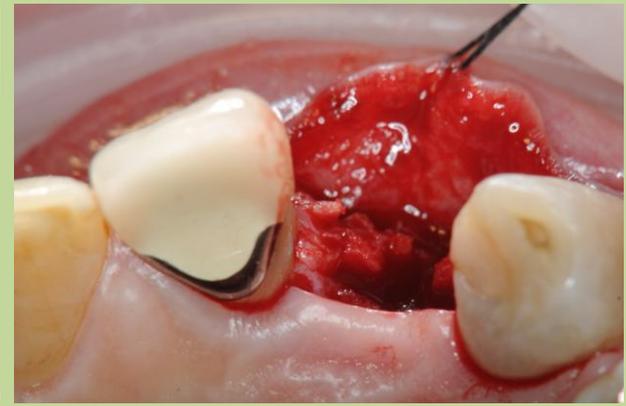
抜歯は他医院にて行われ、抜歯6ヶ月後の状態。



剥離後(左)



剥離後(唇側面観)



オーギュメーター拡大中

作業手順

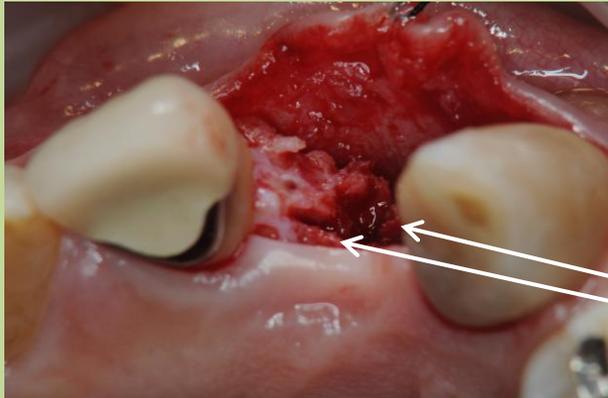
:剥離

:ダイヤモンドディスクで皮質骨をプレスリッピング(やや傷をつける程度)

:コメントソノサージェリーで皮質骨を完全にスリッピング

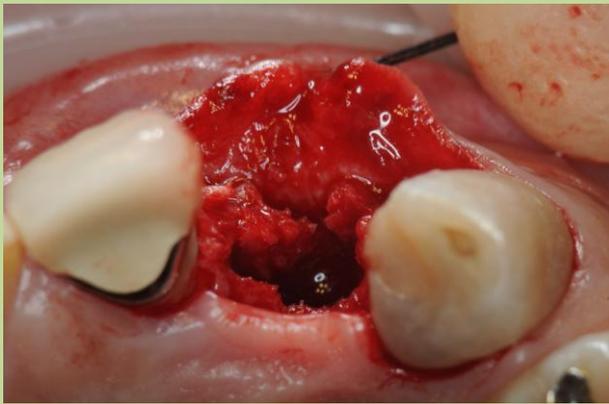
:ボーンスリッターで海綿骨をスリッピング

:オーギュメーターφ0.9を用いて、近心、遠心を起始点として海綿骨を移動

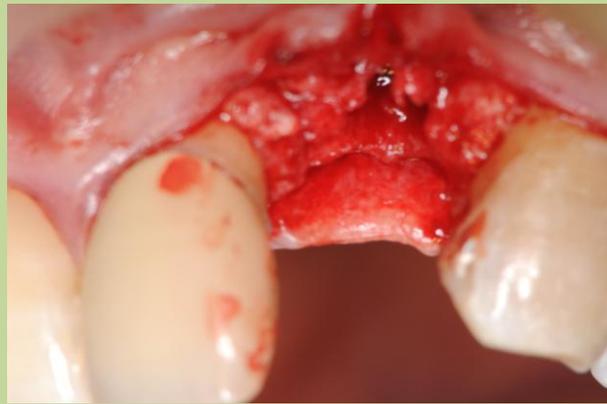


起始点を2ヶ所にするすることで、1番遠心部と3番近心部の骨を唇側裂開部に寄せることができます。
口蓋側の一直線の溝は、コメントソノサージェリーで形成しています。

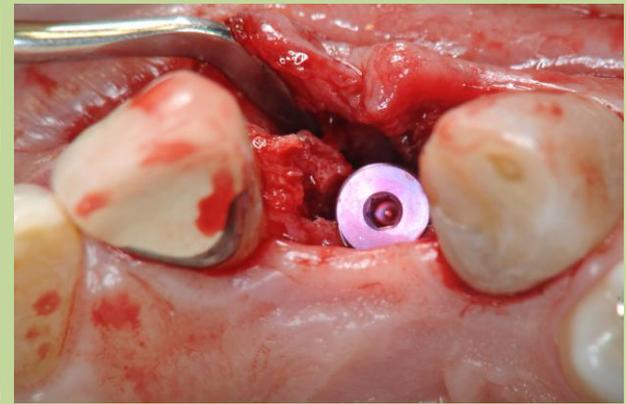
起始点



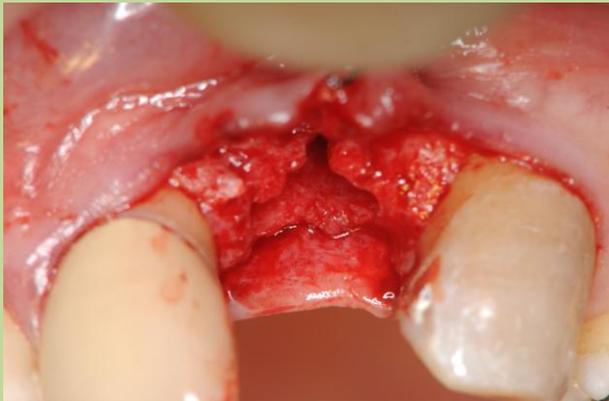
拡大後(咬合面観)



拡大後(唇側面観)



埋入直後



剥離後(唇側面観)

オーギュメーターφ3.8拡大直後は唇側板の裂開部が埋まりましたが、最終ドリル使用時と、インプラント埋入時に離断してしまいました。

カムログインプラントφ3.8では初期固定が得られなかったためφ4.3に変更して、初期固定を得ることができました。

剥離後の状態にドリリングをすれば、ほとんどの骨を失う可能性があります。その部分に埋入してGBRを施す方法と比較して、骨補填材が骨に置換しやすいと考えられます。

本症例では「ネオボーン」と「シトプラスト」を使用しました。それらの使用に関してはオペ動画をご参照ください。



縫合直後



オペ翌日



1週間後

Cytoplastを使用して開放創のまま縫合します。縫合後は生理食塩水に浸したガーゼを用いて7～10分間圧迫しました。



メンブレン除去前 術後1ヶ月(左)



メンブレン除去後(右)

抜糸はオペ2週間後に行いました。メンブレンの露出が大きくなっていますがそのまま治癒を待ちます。1日2回、ソルコセルルを塗布してもらいます。



メンブレン除去前 術後1ヶ月 (左)



メンブレン除去後 (右)

メンブレンは無麻酔下で行いました。ピンセットでつまむと、伸びながら除去できます。膜直下には幼弱な粘膜が出来ていますが、そのまま治癒を待ちます。この場合も、1日2回、ソルコセリルを塗布してもらいます。



オペ直前(左)、オペ1ヶ月後(右)

オペ4ヶ月後に2次オペ、上部構造装着



オペ4ヶ月後の口腔内画像

カムロゲインプラントのボトルネックタイプのジンジフォーマーを装着します。



2週間後にアバットメントを装着して印象採得を行ないます。



ジルコニアクラウンを製作



上部構造装着後